

「道は一つ、心は一つ」

昨夜の大人会議で「僕の今の實力ではみんなと心を磨いていくことが難しいので、メンバーをやめます」と宣言したさのっち。実は今までもメンバーとしてやっていくのかどうか、さのっちの中で迷う心がありましたが、「メンバーをやめます」とはっきりみんなの前で宣言したのは今回が初めてです。それを受けて、いさどんと面談する場がもたれました。

さのっち：

僕の今の想いとしては、昨夜の大人会議で「中途半端な気持ちだったら、メンバーをやめる方がお互いのためだよ」と言われた気がして、僕もそうだなと思っています。今の自分には大学の仕事が東京であって、ファミリーとしての仕事との両立を考えた時に、両立することが難しいという気持ちがあります。

いさどん：

今までさのっちは、メンバーとしてのきちんとした活動は何もしてこなかったと思うけれど、何かをしてきたのですか？

さのっち：

。。。具体的には何もしていません。

いさどん：

だから、一つ一つの言葉が正確ではないんだよ。言葉というよりも、認識が正確ではない。さのっちは実際に物理的にも精神的にもここに貢献は何もしていないよ。

さのっち：

そうか。。。そうなんだけど。。。。

いさどん：

いや、「そうなんだけど」ではなくて、そういうことも一つ一つ認識が違いすぎる。あなたは自分の側の思惑でものを考えているから、正しく理解していない。

ようこ：

「ここの活動と大学の活動」とさのっちは言うけれど、例えばここにおいて時間や労力をかけて活動をする、ということはなかったよね。さのっちは、ただ「メンバーです」と名乗っていただけじゃない？

いさどん：

そうそう。

さのっち：

僕が実際に伝えたかったのは、具体的な物理的な活動というよりは、例えば大学の仕事をしていると、メンバーとしてここに 1 ヶ月とか長期的にすることは難しいし、僕自身、1 ヶ月に 1 回か 2 回ここに帰ってきて、メンバーとしての意識を合わせていくことがすごく難しいなと感じていて。。。だから、今の自分自身の心を見た時に、もう僕は無理をせずギブアップした方がいいなという結論に至りました。

いさどん：

それは今の心ということではなく、元々さのっちはそういう魂なんだよ。さのっちは僕らが何を伝えたいのか、ということがさっぱりわからない。

さのっち：

正確に理解出来ていないということですか？

いさどん：

理解出来ていないのではなくて、わからない。そういう自分がいるということは知っている？

さのっち：

一応、言葉では理解していると思っています。

いさどん：

さのっちは上っ面で物事を捉えすぎるから、表面だけしか理解していない。言っていることが正確だとしても浅すぎるんだよ。そういう自分だということを認識出来ている？

さのっち：

あまり認識出来ていないと思います。

いさどん：

あなたから見て他にそういう人がいたとしよう。例えばケアでここに来ている人とかね。さのっちも今回知り合いの子をここに連れてきて、僕に相談に乗ってもらいたいと言っていたよね。そういう人を見た時にさのっちはどうする？

さのっち：

何かの救いになればいいなと思います。

いさどん：

今回その子が都合で来れなくなったということは、人のことを考えるよりまずは自分の問題を解決しなさい、ということで神様がこういう場を与えられたのだと僕は思っている。自分をそういうふうに見ないと、いつまでたっても自分の心の中にある癖に翻弄されるよ。もっとも、翻弄されるといっても、本人にとっては翻弄されている意識はないのだけれど。だから、「こちらの言っていることがわかる？」と聞いているんだよ。さのっちの認識は、こちらの言っていることと全然違う。だから、いつもさのっちとはわかり合えない。

さのっちとわかり合うということはすごく難しいと僕は思う。そういう自分を知っている？あなたはわからないとそのままだしておくんだよ。そして、「ここの活動が出来ないから」とか、「1 ヶ月に 1 回ここに来るだけでは、ここの人たちと同じ意識を保つことが出来ない」と言っている。それでみんなが「中途半端ならやめておいた方がいい」と言おうものなら、「そうします」という方を選ぶ。

しかし、僕が言っていることがわかりさえすれば、みんなの真意がわかってもいいはずなんだよ。あなたには今までもここの特別な関わり方をみんなが認めてきた。あなたの言っていることは全く見当違いだよ。物理的なことを今まであなたに求めてきたことはただの一度もなかった。

さのっちは今、「うんうん」と頷きながら聞いているけれど、こちらの言っていることをよく理解している？

ようこ：

わからない時は、「それはどういうことですか？」って問いただしたっていいんだよ。コミュニケーションなんだから。

さのっち：

うーん。

いさどん：

何がわからないのかもわからない。まず、人の言っていることを相手が伝えたいように認識することが欠けている、ということは理解出来る？

さのっち：

そう言われてみると、そうなのかなと。。

いさどん：

「そう言われてみると、そうなのかな」というのは、まだ理解していないということだよ。

そこで、「そう言われるのであれば、そこを理解したい」という意識が働いたら、今の状態はないはず。でも、あなたの発想は、「自分の心の中ではそうは思っていない」ということだよ。

ようこ：

さのっちは自分を変えようとしなないよね。前回さのっちがここに来ていさどんと 3 時間かけて話していた時も、さのっちの認識がずれているということをずっと話していたんだよ。

いさどん：

お互いの認識が合っていれば、こういう話の場は起きてこない。

さのっち：

僕はみんなの言っていることを正確に把握していないということなんだね。

いさどん：

言葉は聞いているけれど、心は受け取っていないということだよ。だから、「僕はわかっていますよ。こういうことですよ」と独断的に結論を出してくる。「こちらはそういうことを全然言っていない」と伝えても、「でも、言葉ではこう言いましたよね」とこちらの伝えたいこととは違うことを言う。

これはさのっちを説得するために話しているんじゃないんだよ。せっかく縁あって出会ったのだから、その認識が出来ないまま、ずれたまま終わっていくのではなく、そこをまずあなたに認識してもらいたいと思っている。それで、自分の中に欠落している部分があるという認識はあるの？

さのっち：

今のところないですね。

いさどん：

欠落している部分がないと思っている限りは、僕らが言っていることは全く無意味になる。

さのっち：

まだ把握出来ていないですね。

いさどん：

「まだ」ではなくて、これからだって今の心でいたら把握出来ないよ。「自分から見える景色はこうだけれど、相手から見える景色はこうなんだ」と思った時に初めて、多様性を認める世界になる。あなたがよく言う「多様性」やその人の個性を認めることは、ここでやっ

ていることだよ。でもあなたには、ここが多様性を認めないところに見えている。ここはそれをもっとも大切にしているところだよ。

ようこ：

さのっちは、みんなの個性を認めていないということがわかる？みんなやいさどんの言うことの真意を受け取らない。言っていることがわからなくても、相手に聞かないし。

いさどん：

ということは、相手の多様性を認めてお互いに認め合うということをしていないんだよ。自分の理論で全てを見ている。それは、あなた流の多様性を言っているだけだよ。

ようこ：

さのっちの創っている世界は、それこそ、独善的で抑圧的な世界だよな。

さのっち：

僕はいさどんを認めていないということか。。。

いさどん：

僕たちを認めてほしいということを行っているのではなくて、そういうものの見方が欠落しているということ。

ようこ：

例えば、すごくわかりやすい例として、昨夜の大人会議でみんながさのっちに、「やる気があるのならやればいい。やる気がないのならやめればいい」と言ったけれど、その真意としては、「やる気を出してみんなで共に歩んでいこう」ということを言っているんだよね。でも、そこでさのっちは言葉だけを捉えて、「自分にはやる気がないから出来ない。みんなもやる気がないのであればやめればいいと言っているし」という結論を出した。そこで、みんなとの認識がずれている。

さのっち：

自分の中で「やろう！」という気持ち湧いてこないから、こんな気持ちのままでメンバーでいるのはみんなに悪いなと思って。。。

いさどん：

それがあなたの人間性だよ。元々しっかりとしたやる気がないのに、やる気のあるモードを見せてここと関わってきた。あなたのするい部分というか。本音を出さなくて、どこでもちょっとかじっては盛り上がり、軽く人脈をつくる。でも、だからといってそこで深くつながり、共に何かをやっていくということはしてこなかった。それはあなたの人間性そのもの

だよ。こんなに深く人と関わろうとしているのは、ここが初めてじゃない？

ようこ：

これもさのっちを説得しているわけではなくて、さのっちがそうしたらいいということを言っているわけでもないけれど。人には相手の心の痛みを感じて、「これだけ相手に想われていたら申し訳ないな」とか、「ありがたいからその想いに応えたいな」という想いが自然と湧いてくるものだと思うのだけれど、そういう部分が自分には欠けていることはわかる？普通の人が持っている良心がさのっちの中にあまり見られないよね。

さのっち：

相手を理解出来たとしても、わかるが故に逆に申し訳ないという気持ちになってしまう。相手が自分に期待して言ってくれているとしても、それに応えられたい自分がいる時に。。

いさどん：

それは大きな認識違いだよ。「わかるが故に申し訳ない」って、理解することを求めているだけだから、理解した時点でもう次のステージに行くんだよ。理解し合うというところから信頼が生まれて、次のステージに行ける。

ようこ：

この話は、理解出来たらもうそこで解決していることなんだよ。

いさどん：

そう。ということは、さのっちは理解出来ていないのに、「僕は理解出来ています」と言っているんだよ。自分の言っていることが矛盾しているということに気が付いている？

さのっち：

頭が混乱してきてよくわからないんですけれど。。

いさどん：

僕は何を伝えているのかというと、あなたに何かが欠落していることを認識させる作業をしているんだよ。それはここの認識のずれだけではなく、あなたの心で接していくとどこでも同じことが起きる。だから、あなたには何か足りないところがあることを伝えたい。

これは難しい話ではない。あなたが日頃大学で教えていることよりもずっと簡単なことだよ。でも、あなたは自分の中に欠落している部分があることに気づかないといけない時になると、「わからない」と拒否モードになって全く考えようとしない。

これは今後僕がケアをやっていく中で、一つの事例としてはすごく参考になるものだけれど、

それこそアスペルガー症候群のようなもので、あなたにはすごく優秀な部分と、かたや劣っている部分があるんだよ。もし、結婚して家庭生活をやっていくような環境ではやっていけないよ。全部自分中心モードだから。

あるところではすごく優秀だから、大学の先生はやれる。でも、これでは学生は育てられないよ。それは、与えられたカリキュラムをこなすだけだ。それをあなたが自分で認識して克服し、今より上のレベルの人材であったり人格者になりたいかどうかの話だよ。そうすると、僕らが言っていることが理解出来る。

これはこことどう関わるのかという問題ではない。こうやって縁あってあなたと出会ったのだから、あなたを見てそういう特徴があるということはおみやげとして伝えたいと思って言っているのだけれど、あなたにはどう言ってもそれがわからない。一種の統合失調症のようなものだよ。

そこで、「今言ったことがわかる？」と言うと、「頭ではわかるんですけど、実際にはわからないんです」と言うんだよ。

さのっち：

「自分には何かが欠落している」ということはわかってきたのですが、何が欠落しているのかまではちょっと。。。

いさどん：

とっかかりとして、「欠落している部分があるんだ」ということを認識することは大切だけれど、あなたは「欠落しているところがあるんですよ。でも僕にはわからない」というところで終わってしまっている。

さのっち：

それで終わりにしてしまっていますね。

いさどん：

頑固者なのか、どこか心の部分の一部屋が欠けているのか、配線が狂っているのか、何か原因があるからそうなる。でも、僕には分析は出来ている。あとは、あなたがそれを認識するかしないかだけだよ。それが全部こういったことをつくっている。

ようこ：

今のさのっちは、「いさどんとようこちゃんにはそう見えるかもしれないけれど、僕にはわからない」と言っているよね。それは、自分の見えていることが正しくて、二人の言っていることが外れているということを言っているというのはわかる？

いさどん：

それは常にあなたの癖で、自分を振り返るというよりも、「相手に問題があるんじゃないか」と先に思うんだよ。ここでは、相手のことよりもまずは自分の問題を先に見つめるという姿勢が大切なんだけれど、あなたは常に一方通行だよ。常に相手の問題を先に見て、自分のことは全く振り返らない。そして、振り返らないといけなくなると、「わからない」と言う。

ようこ：

「自分が色眼鏡で見ているんじゃないか」と思うよりも、「相手も色眼鏡で見ているんじゃないか」とさのっちは思うんだよね。そして、それで話が終わってしまい、さのっちの学びにならない。

いさどん：

そこで僕が「今言われていることは認識出来ている？」と聞くと、「わからない」と言うんだよ。

さのっち：

いさどん、僕の欠落している部分を教えて下さい。

いさどん：

まず、自分で思う、欠落している部分を言ってごらん。

さのっち：

人の話を理解する能力かな。

いさどん：

まず、人の話を理解する時に、相手の言っていることを表面的にしか理解しないところはあるよね。

ようこ：

言葉だけを追って、奥にある真意を感じ取ろうとしない。

さのっち：

それは昔からあるかもしれない。

いさどん：

人は言葉ではない言葉を暗黙のうちに態度などで沢山出しているんだよ。それが感じ取れないというのは家庭問題などの一番の原因だよ。

さのっち：

コミュニケーションの障害ですよ。それは昔からあると思います。そういうことをいさどんは言ってくれていたのか。。。僕は今ひとつ、相手の想いが理解出来ないということだよ。昨日の場合だと、「やる気がないのなら無理をしない方がいいよ」という言葉に反応して「そうだな」と思ったのだけれど、それは相手の想いを理解していないということだよ。

いさどん：

まあ、そういうことだ。

ようこ：

みんながさのっちがここを離れることを望んでいるかどうかということだよ。

さのっち：

昨日のミーティングの後ともちゃんが僕のところに来て、「みんながどれだけさのっちのことを想っているかがわかったら、さっきの言葉はないはずだよ」と言ってくれたけれど、僕にはそういう視点がなかったな（いさどん、ようこ苦笑）。

いさどん：

さのっちは、ここのメンバーであるということをどうということだと思っているの？

さのっち：

メンバーであるということは共に心を磨き合う仲間。。。。

いさどん：

でもさのっちは、「心を磨き合うことは僕には出来ない」と言っているんだよ。心を磨き合うという前提でメンバーになったにもかかわらず、いざ心を磨くとなったら、「メンバーから外れた方がいい」という結論になぜ行くの？心を磨くということはどういうことだかわかる？

さのっち：

精神的に成長するということですよ。

いさどん：

ということは、現在はどういう状態なの？

さのっち：

現在はまだ成長段階です。

いさどん：

そうだね。つまり、不十分な状態だから磨いていくんでしょ？それなのに、不十分なところが出てきたら、「僕は不十分だからメンバーから外れた方がいい」なんて、そんな馬鹿な話はある？

ようこ：

そうしたら、みんなメンバーから外れてしまうよ（笑）。

いさどん：

自分を越えていくための出来事をいただくから、そこでメンバーの本来やるべきことがあるはずなのに、あなたは「僕は不十分だからやめた方がいい」という結論に行くんだよ。

さのっち：

いさどん、もう一つ聞きたいことがあるんですけど。。。。

いさどん：

ちょっと待った！あなたはいつもそうやって、一つの話が終わる前に次の話に行こうとする。それも問題だよ。納得して理解する前に次の話に行こうとする。

ようこ：

それも癖だね。

さのっち：

癖か。。。。

ようこ：

これは、相手の想いを理解していないというさっきの話にもつながるよね。さのっちとしては話が終わっていると思っているのかもしれないけれど、こちらとしては終わっていないのだから。

さのっち：

勝手に転換しちゃうということかな。

いさどん：

勝手に転換するというよりも、まずその前に今現在語られていることをしっかり集中して理解する、ということをしているかどうかなんだよ。軽く表面的に聞いていて、それを理解しようという意識がないから、相手の話が終わる前に「じゃあ次に行きましょう」となるんだ

よ。これは相手に失礼なことをしているということがわかる？

さのっち：

はい。そこは直していきたいと思います。

いさどん：

直していくということは、それが沁みついているのだとしたら、それこそ心を磨いていくことになるのだよ。でもそこで、「さのっち、また同じことをやっているよ」と言われると、今までのあなただと、「僕はまだ十分に出来ていませんからメンバーをやめます」というところに行くんだよ。

ようこ：

心の壁にぶつかるたびに、「僕には出来ないからメンバーをやめます」と言うんだよね。みんなだって心の壁にぶつかるのは同じだよ。壁に出会うからこそ、そこを越えてみんなで歩んでいるんじゃない。

さのっち：

僕はくじけてしまうのか。

いさどん：

くじけるか（笑）？くじけるというのは、壁に真剣に取り組んで、「これはダメだ！」とくじけていくんだよ。

ようこ：

さのっちは何もやらずに「くじけている」と言っているんだよ（笑）。

いさどん：

そうそう。それで、楽な方に結論を出す。

さのっち：

あきらめてしまうのか。

いさどん：

あきらめるという言葉も正しくない。あきらめるというのは努力した人があきらめるのであって、さのっちはそのための努力もしていない。だから、こちらとしては「さのっちは機能障害なのかな」と思ってしまうんだよ。

今朝、「今日はさのっちに何を伝えればいいのか」と考えた時に思い浮かんだのは、まずは

あなたがこちらの想いを認識出来ているのかどうかということだった。

さのっち：

そこがずれていたら、話になりませんよね。

いさどん：

そう！話にならないんだよ。

さのっち：

そこからずれていたのか。。。そうすると、いさどんの僕に対する想いは何ですか？

いさどん：

僕はあなたに対する欲深い想いは何もないよ。あなたがここにいるのならあなたを活かすことを考えるし、いなければそうしないだけだよ。ただ、こちらから見える景色を情報提供しているだけ。僕は常にそれを誰に対してもやっている。利害関係にあったら、相手に正しい情報は伝えられないよ。

ようこ：

この場だって、別にさのっちを引きとめるためにあるんじゃないよ。

さのっち：

そうか。いさどんにもそういう意図はないんですか？

いさどん：

ないよ。昨日の大人会議でのあなたの発言があったから、ここを去る前にあなたは僕の言っていることを理解しているのか、少なくともそれくらいはおみやげとして持たせてあげようと思ってこの場がある。ただし、僕の言っていることが理解出来ていたら、あなたは今のような姿勢を取っていないはずだよ。

さのっち：

いさどんの想いは、僕に精神的に成長してほしいということですよ。

いさどん：

それは当然のことだけれど、それはさのっちに特化して言っていることではなくて、誰に対してもそうだよ。さのっちにということではなく、人に成長してもらいたい。なぜかという、そうしないとそれが世の中の害になることがあるから。

さのっち：

相手の言葉の奥にある心の部分をどう受け止めるかということですよね。

いさどん：

そうだよ。相手の真意を受け取ることがさのっちには出来ていない。噛んで砕いて粉にして、形を変えてまでしても、なかなかあなたには伝わらない。

さのっち：

そうか。。。

ようこ：

例えば昨日のことで言うと、「やる気がある人はやればいい。やる気がないのならやらなければいい」と言った人が、なぜそういう言葉をさのっちに伝えたのか。そして、どうしてああいう場がもたれたのか。みんなの奥にある心を感じることが出来たら、さのっちの姿勢もすぐに切り替えることが出来るはず。

いさどん：

でも、そこで逆の方にいく。

ようこ：

「なぜこの人はこういうことを言うのか？」ということを考えない。

いさどん：

自分を振り返らずに相手の言った言葉を受けて、「辛いことはやめよう。ハードルを越えることはやめよう」となる。

ようこ：

私はメンバーの中でもストレートに伝える方だけど、私でも相手のことを想ったら、ストレートに言わずに言葉を変えて言うこともあるよ。

さのっち：

そうか。そこが僕はずれていたのか。

いさどん：

これはずれているのか、欠落しているのか、色々だけど、さのっちはいつも相手の真意を受け取らない。説明しても相手の真意を受け取れない。しまいには「わからない」と言う。そうすると、僕の感覚としては、統合失調症のような機能的に問題がある人と接している気持ちになる。

さのっち：

僕にはそういう部分があるんじゃないかということですよね。

いさどん：

そうそう。でもこうやって話をしていると、一般生活は送れるんだよね。統合失調症の人だったら施設じゃないと日常生活を送れない人がいるけれど、さのっちの場合は一般生活は送れる。大学の先生でも実社会では全然適応出来ないのに、学問の世界だけでは通用している人がよくいるんだよ。

さのっち：

やっと、いさどんの言っていることがそうだなと思った！自分にそういう傾向があるなと思いました（いさどん、苦笑）。

いさどん：

例えば、さのっちが一般企業でお客様相手に営業をやっていたら難しいよ。

さのっち：

今の仕事だから、逆にやれるということですよね。ある部分は優れているけれど、ある部分は欠落しているということだから、優れている部分を活かして今の職業についていると。

いさどん：

違う言い方をすると、さのっちには障害的な部分があるとしても、実際には障害者ではない。さのっちがなぜべてるの家に共鳴するのかといたら、「今のままでいいんだ。だから何もしなくてもいいんだ」というところに共鳴する。そして、ここの何に対してあなたが反発しているのかというと、自分を高めていくとか、成長するために努力するというところに違和感を感じているんだよ。さのっちと僕らとの違いは明らかにそのところにある。僕らは人を見て、「この人は個性としてこのままでいいんだよ」とべてるの家と同じ見解を持つ場合もある。でも、「この人は努力すればそこをちゃんとクリアして、普通の社会人として暮らせる」と捉える場合もある。こことべてるの家が違うのは、ここは物事の可能性を広げているんだよ。

先日、べてるの家の人たちがここを訪れた時に、「私たちは可能性のある人に対しては、その人がそこから抜け出せるようにサポートをします。ここは一般社会と障害者の狭間にいる人が社会復帰するための場所です」という話をした。べてるの家はもう少し障害として重い人を受け入れ、障害を個性として活かし、「障害も楽しんでいきましょう」と謳っている。しかし、そちらよりこちらの方が向いている人もいれば、ここに来た人の中にもその人の特徴としてそちらの方が向いている場合もある。だから、「そこを見分けて今後連携しましょう」という話し合いの場を持った。

さのっちはその微妙な違いを理解出来ず、べてるの家の方にだけ共鳴している。「僕はこうなんだから、これでいいんだ」という結論に持って行ってしまふ。でもこちらから見ると、さのっちは一般生活を送れているし、会話もこうやって成立している。そうすると、もう少し自分を見つめるということをしたら、そこをクリアすることが出来るはずだよ。そうしたら、大学の教授としても社会人としても、もっと健全で大きな役割が果たせるということ伝えてる。

ようこ：

「さのっちは自分を変えることが出来る」と私たちは思っているから、今までもこうやって話し合いの場を持ってきたんだよ。もし、私たちがそう思っていなかったら、最初からこういう場はないよ。「それはさのっちの個性だからね」で終わっているはず。

さのっち：

いさどんの見立てとしては、「さのっちは努力したら変えられる」ということを言っているわけですね。

いさどん：

もちろんそうだよ。

さのっち：

僕の認識では、「変えられないのかな」と思っていたんですけど。。

いさどん：

それは変えられないのではなくて、あなたははじめから変える気がないんだよ。

さのっち：

つまり、やる気の問題だと。意欲があれば変えられるということですよ。

いさどん：

そうすると、さのっちと僕らとでは、どちらがさのっちという人のことを想って、この人間の価値を上げを考えているのかということだよ。

ようこ：

どちらの方がより真剣にこのことを考えているのか。

いさどん：

あなたは自分の価値を上げようとしているのではなくて、下げようとしているんだよ。今、

さのっちはここの恩恵を受けていることを知っている？

さのっち：

はい。

いさどん：

どういう恩恵を受けているの？

さのっち：

生き方の指南をもらっていると思います。

いさどん：

あなたは放っておくと心がどんどん自分勝手な方へ行ってしまうから、「さのっち、そっちじゃないよ」と時々こちらが軌道修正してきた。そうすると、今大学でやっているのは自分の力だとさのっちは考えているのだけれど、僕はそうは思っていない。あなたがそういう精神状態を保てていられるのは、ここがあなたの心を時々修正しているからやっているのだと見ている。だから、さのっちがこことの関わりを断ったらそのことが自分でもよくわかるはず。

さのっち：

いさどんはなぜそこまで僕に時間をかけてくれるのですか？

いさどん：

そこに問題があるからだよ。別にさのっちだからというわけではない。目の前にそういう人がいるからだ。これもあなたの特徴で、「自分だから相手はやってくれる」とすぐ自分に特化して考えるけれど、そうではない。僕は誰に対してもそうする。

ようこ：

でもそれも、本人に自分を変える意志がなければ意味がない話だけだね。

いさどん：

だから、あなたに自分を変える意志はあるのか、こちらの言っていることの意味がわかるのかと聞いているんだよ。さのっちは昨日、「メンバーとしてここを離れます」と言ったから、そのけじめをつけようとしてこの場を設けたけれど、それ以前にこちらの言っていることがまず理解出来るのかという確認のための場所だよ。

さのっち：

みんなとしては、気持ち良くさのっちを送るということでこの場があるということですよ。

いさどん：

そうそう。あなたの決断を聞いてすっきりしている人は誰もいない。こちらの真意が伝わっていないのだから。それも、ここに 1、2 回しか来たことがない人なら、「あの人はそういう人だね」で終わるけれど、あなたはメンバーとして 3 年以上ここと付き合ってきたわけだ。そういう関わりのあった人が、「やる気がないのであればやめたらいい」と言われて、「じゃあ、やめます」と言うのかということだよ。こちらの真意を受け取ることが全く出来ていないのだから。

あなたは今までも個人的に思っている無理解のところを外で発信してきた。「追い風になってほしい」とまでは言わないけれど、「せめて逆風を吹かすのはやめようよ」と何度も伝えてきた。僕流の話をする、ここは神様が運営されておられるのだから。実際に富士山の頂上で天からの言葉をいただいてそのように歩み、今そうになっている。実際にこれだけの人を巻き込んで、外の人とも深く関わっている。これは単に誰かが戦略としてやっているとはとても思えない。そういうことからしたら、そこに逆風を吹かしていると、そのうちにそのツケが実際の生活に現れてくるよ。神様は別にバチを与えるのではなくて、ふさわしい現象をふさわしく起こすのがこの世界の仕組みで、因果応報だからね。

こちらの真意を受け取れない。それが障害だとしたら、べてるの家のような活かし方もあるのだろう。しかし、あなたはそのようにも活かされていない。あなたはそれを問題事として知らぬ間に振りまいていくから、今はここがカバーしているけれど、単独で生活していたら、色々な人間関係の行き詰まりや問題事として出てくるよ。あなたがメンバーとなる前に、あなたの問題をみちよちゃんやよしどんやあちこちから聞いてきた。「さのっちはあんなに真面目な人なのに、何であんなに色々な人からブーイングを受けるのだろう？」と思っていたけれど、そういう部分が未だにある。だから、今までずっと軌道修正しながら付き合ってきた。

ようこ：

ある意味、障害を持っている人の方が接しやすいとも言えるんだよ。その人たちは「自分は障害を持っているんだ」という認識があるわけだから。それはこちらとの共通理解でしょ。でも、さのっちは場合は「こういう問題があるね」と伝えても、さのっちはそれを認識していないから、お互いに共通理解を持てない。さのっちはもっと人格的なことで、世間で言われる障害を持っている人ではないのだから。

いさどん：

学問が進んでいくと、病理学上これを障害とみなしていくかもしれない。

さのっち：

そうですね。コミュニケーションをする上での一つの障害ということですよ。

いさどん&ようこ：

そうそう。

さのっち：

それは昔からあると思います。

いさどん：

あなたからすると、「何であの人はあんなふうに捉えているのだろうか？」とか、「僕は相手の言った通りに答えているのに何でだろう？」と思うんだよ。

さのっち：

相手の真意が読めないということですよ。そこまで言葉で言ってもらうと、ようやくわかります。

いさどん：

さのっちは、「そこまで言葉で言ってもらうと、ようやくわかります」と言うけれど、結局言ったことの真意がわかっていないからその後にもたわかり合えない、というのが今までのパターンだった。大学や近い関係を築く必要のないところでは問題が発生しないんだよ。でも、一般の会社だともっとコミュニケーションを取らないといけなくなるからね。

ようこ：

関係が深くなると問題が発生する。

人間関係が深くなると、わかり合えないということか。。

さのっち：

いさどん：

今までさのっちは深い人間関係を築くことを全然やってこなかった。だから今の仕事が合っている。あなたはそういう特徴を持って生まれてきたんだよ。

さのっち：

なるほど。先天的なものなんだと。

いさどん：

それを、「僕はそういう人で生まれてきて、僕にはこういう障害がありますから、皆さんの想いがわからないところがあります。腹が立ったらごめんなさいね」と最初に言っておけば、

「あの人はああいう人なんだ」と伝わるわけだよ。言わなくても思っているだけでいいんだよ。

ようこ：
それがべてる的考えだね。

いさどん：
「こっちの方が楽でいい」と思ったら、その人はそこで止まってしまうんだよ。

さのっち：
いさどんやようこちゃんは、「さのっちには克服可能だ」と見ているということですよね。

ようこ：
それが心磨きだよ。

いさどん：
というか、それを認めてしまったら情けないよね。少なくとも、「可能性のある時くらい挑戦しようよ」ということだよ。

僕は僕らのやっていることの真意を受け取れない人の気持ちもよくわかる。縁がなければその真意を説明することも出来ないから仕方のないこともある。それは、僕らの歩む道の試練というものだよ。僕らを育ててくれるために神様が用意されたものだ。順風満帆ではないことによって、僕らに揺るぎのない心をつくってくれているのだと思っている。

あなたは考えが浅いから、人から何かを言われると自分のトラウマや共鳴するところに全部持って行ってしまう。そうすると、ここの追い風になるどころか逆風を吹かせることにもなる。この道が僕の道だったのならばどうなったって構わないのだけれど、これは神様からいただいた道だからそういうことは許さない。僕はここを維持し守ることを託されているから。

さのっち：
僕がみんなの真意を理解していなかったのは、「さのっちにはやれるはずだ」とみんなは思っているのに、僕がそう思っていなかったからですよね。

いさどん：
昨日も言ったけれど、あなたにそういう気持ちがないのなら何も言わない。メンバーから外れたら何も言えない。見事なくらいそれを守るよ。ここを外れて外からここのことを色々と中傷する人もいるけれど、僕らはそういうことをしない。それは自分の値打ちを下げることになるから。人の値打ちを下げるとは自分の得のように思う人もいるけれど、人の値打ち

を下げることは自分の値打ちを下げることだよ。それも見当違いのことを言っていたら、なおさらだ。でも、そういう人たちは自分を振り返らないものだから、楽になろうと思って全部人のせいにする。あなたにもそういうところがある。

「どういう心で生きたのか」ということが、最終的に自分の価値になる。心根のところが歪んでいても表面的につくろったらOKだったら、神様はいらないよ。そうになると、この世界は完全に無秩序な世界になる。

さのっち：

いさどんは、いさどんから見える僕の問題を伝えてくれているんですね。

いさどん：

ずっとそれをやってきた。それが受け取れたら、僕らには信頼関係がある。あなたには僕らに対する信頼がない。信頼がないというのは不幸な人だよね。僕は人間不信ではあるけれど（笑）、究極の信頼を持っている。究極の信頼とは、眼に見えない、得体の知れないものに信頼を置いているということ。

さのっち：

いさどんはそれに信頼を置くために、個人の人生として色々なことがあったんですね。

いさどん：

でも、あなたとは違うよ。僕は一方通行で来たから。

さのっち：

一方通行とは神様からの一方通行ということですか？

いさどん：

そうとも言えるけれど、僕は自分を否定して、自分のうっとする方を選んで生きてきた。あなたは自分を否定するのではなくて、自分がうっとしない方を選んできた。

さのっち：

楽な方を選んできたということですね。

いさどん：

でもそれは、自分を楽にしない生き方なんだよ。

さのっち：

それはよくわからないですね。。。

いさどん：

それではあなたの人間性を育てないから、問題事の種があり続けることになる。「あなたはずっと恩恵を受けて今まで生きてきた」とさっきも伝えたけれど、冷静に自分で振り返ってみたらどう？軽い生き方をしてきた時から、だんだん立場が重くなってきて、自分が「ここではこうだった。あそこではああだった」と細かく分析が出来たら、その傾向があることはわかるはず。ただ、あなたはそういうことが顕著に現れることを避けて生きてきた。仕事でもメンバーとしての位置づけでも、何でも気ままに軽いところを選んでいる。

それは違う視点から見れば、なぜそういう軽いことが出来るのかということ、あるところでは能力が高いからそれが出来た。しかし、ではそれがずっとやり続けられるのかといったら、いつかはそれが問題事として必ず出てくるよ。それともう一つ、その高い能力をもっと活かすという意味では、活かしきれなくなってくる。

僕があなたの追い風になって、あなたが自分に「楽だから」と逆風を吹かせてどうするの？楽は楽ではないんだよ。つまり、自分に逆風を吹かせているということがわからない？ぼくはいつも人の応援をしている。ケアの人にもいつも伝えるのは、「僕が今話しているのは僕から見える客観的なあなたの状態です。あなたがそれに取り組まなければ、あなたの問題はずっとあなたについてまわるのです」と。

今、僕の目の前にあなたがいるから、僕はこうやって真剣に話をしているけれど、あなたにその意志がなければこういう話をする意味がない。でも、その問題がついてまわるあなたが真剣ではなくて、こちらが真剣というのはどういうことなのか。本当は本人が一番真剣にならないといけないはずだよ。そして、本人が真剣になった時にその問題は必ずクリア出来る。そこが足りないからさのっちの今の状態なんだよ。

ようこ：

ずっとそうだったよ。いつもみんなの方が真剣で一生懸命で。でも、それはさのっちからすると、「ここは独善的で抑圧的な場所だ」ということになるんだよね。みんなの想いが理解出来れば、すぐにもわかり合えることだよ。自分の中に悪意があるからといって、みんなの中にも悪意があると思ったらそれは違うよね。

いさどん：

世の中ではそうかもしれない。でも、自分に悪意があるとそういう人間を引き寄せるんだよ。でもここでは、人がどうであっても関係ない。みんなが自分を見つめているから。外の人に染まらないという世界があるんだよ。

結局、僕が今伝えたかったのは、あなたに僕らの言っていることが認識出来るのかというこ

と。その他のことは、二の次だ。一番初めのところがわかっていないから、こういうことになっているのだから。それで、あなたが今後どうするのかはあなた次第。でもここを離れるにしても、少なくとも僕らの言っていることはわかってからと思ってこの場がある。もっとも、僕らの真意がわかったら、こういう馬鹿なことは言っていないはずだけれど。あなたの理論からしたら、「みんなの心がわかる。だから、ここを離れていく」という話だけれど、わかる自分だったら、ここを離れるという結論はないわけだ。

僕はあなたのように頭が良いわけでないけれど、知恵というところではあなたよりはるかに高いと思っている。そこは振り返ってみた方がいいよ。頭脳が優秀であることが人間性にとって大切なこととは限らない。学問を積んでいなくても、世間にほとんど出たことがないおばあちゃんが仏様に向かって「本当にありがとうございます」と綺麗な気持ちで旅立っていく方が、人間の価値としては高いんだよ。大学の教授や医者だからといって、心が汚れて歪んでいたら、そういう人間の方が罪が大きいということ。

自分でよく考えてみたらいいよ。みんなからも、「さのっちは自分にふさわしい行動を取ったね」と納得出来るくらいの行動を取ったら、みんなも気持ち良くあなたと接することが出来る。

さのっち：

自分の中では、『メンバーをやめます』と言ってしまったから、それを覆すのは良くないんじゃないか」と思う気持ちがあるんですけど、どうしたらいいと思いますか？

ようこ：

自分ではどう思う？またここで人に聞いて決断したら、「あの時ああ言われたから、自分はこうしたんです」ということになる。だから、自分の考えで決めないと。それを皆は尊重するだけだから。

さのっち：

では、メンバーとしてやります。よろしくお願いします。

いさどん：

そういうことなら、こういうことはもう二度とないように。この道の尊さに気づいたら、一本道だから。道は一つ、心は一つ。揺るぎのない心で歩いていこう。